（別紙4）　　平成　23　年度

1　自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2770104053		
法人名	医療法人　藤田好生会		
事業所名	グループホーム　いこいの家（ユニット1）		
所在地	大阪府堺市堺区出島浜通35－1		
自己評価作成日	平成23年12月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2770104053&SCD=320&PCD=27

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530－0041　大阪市北区天神橋2丁目4番17号　千代田第1ビル
訪問調査日	平成24年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者同士がフロアーで楽しく過ごし又毎日散歩することで足を鍛えていることです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

病院を母体とする当該事業所では、利用者はホーム内をエレベーターを使い自由に行き来しており、またゆったりとした大きなソファがあるリビングを囲むように居室があり、いつでも寛ぐ事が出来、落ち着ける空間となっています。管理者、職員は常に温かい心で接する事を大切に し、職員同士協力し合いながらケアにあたっています。入浴では2～3名が一緒に入れる一階の浴場を全利用者が使い、気の合った利用者同士で入る事で利用者間の助け合いが生まれ関係作りにも役立っています。昼食は職員と料理の得意な利用者が一緒に料理を作ったり、掃除や後片付けの役割分担をするなどできるだけ自立した生活が送れるように支援しています。また気候の良い日は散歩に行ったり、ホーム周囲の掃除やドライブ、遠足など、外出の機会も多く持てるよう取り組んでいます。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
		○	3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしい自立した生活が送れるように、温かい心で支援していくよう管理者と職員は理念を共有し、手を差しのべています。	「その人らしい自立した生活が送れるように、温かい心で支援していく」という理念を掲げており、管理者はミーティングやケア会議の中で職員に理念の意識付けをするようにしています。ケアにおいてもハード面の固いイメージを払拭出来るように常に温かい心を念頭に置きながら接するようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物に行ったり、お祭りにいったり、施設の外周りの掃除等することで日常的な交流ではないのですが、少しは地域とのつながりが出来ているとおもいます。	ホームのまわりには民家が少なく、交流を持つには厳しい立地ですが、事業所横の道路の清掃、水まきを利用者と一緒にしたり、近辺の店舗の利用や散歩の際に挨拶をするなど地域との交流につなげるように努めています。	ホームの行事に老人会の会長にも参加してもらう事があり、会長の協力を得ながら行事のチラシを作成して配布等を検討されています。ホームの行事への参加を通して今後地域の方々との交流を深められる事が期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人が生活していることは理解していると思いますが、地域の人々や通りがかりの方々が何かあった場合こちらの利用者かと心配して下さることもあります。支援の方法はまだ活かされていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中での第三者の意見を取り入れ、様子を見ることでその利用者にとって必要であればサービス向上に活かせることができる。	運営推進会議は、老人会会長、地域包括支援センター職員、元家族の方、民生委員の参加を得て、2ヶ月に1回開催しています。会議内ではホームからの報告を中心に参加者の意見や助言を得る機会としています。	夜間開催に固定化している為、出席者の広がりが難しくなっています。今後会議がさらに有意義なものとなるように 家族の参加や知見者等への呼びかけが期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会に参加すること又運営推進会議に参加していただくことで、意見・提案等を話し合い地域包括の方との情報交換もでき協力関係も少しずつ築けていると思います。	堺区のグループホーム連絡会の研修に市の担当者が説明や指導に来る事もあり、何かあれば相談するようにしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設として身体拘束禁止に取り組んでいます。常に見守りすることで拘束の必要性がないと思っています。玄関の施錠は前が国道のため事故が起きないためにも施錠しています。	職員会議で身体拘束禁止ﾏﾆｭｱﾙを再認識し、拘束しないケアに取り組んでいます。管理者はさりげない言葉掛けや行動が拘束につながる事を職員に話をしています。ホーム前の交通量が多いことから玄関は施錠していますが各ユニット1～3階までエレベーターで自由に乗降できます。外出希望がある際には職員が付き添って行っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は職員会議等で高齢者に対する虐待について話しあったり、研修に参加することで虐待防止の意識が高くなるように努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性があれば成年後見制度を活用していきたいと思いますが。制度の知識も少しありますが理解と活用についてもう一度学ぶ必要があると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に説明しますが、利用者の状況、病状をふまえ家族とよく話し合い利用者にとって良い方法を決めていきます。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等には面会時や家族会の時など意見や要望等を受け入れていますが、時には反映させています。	事業所では利用料の支払いは振込みではなく、家族に持参してもらう事にしており、管理者はその際に家族の意見や要望を聞くようにしています。また年に1回家族会を実施しています。得られた意見等については職員間にて話し合われています。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、職員会議時意見や提案を聞き入れて毎日の運営に反映できるよう改善し、良いサービスができるようにしています。	職員は1～3階の3ユニットを3ヶ月ごとに交代し、全ての利用者を把握できるようにし、毎日の申し送りや毎月の職員会議では問題点について職員の意見を出し合い、話し合いながら運営に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	少しでもやりがいのある環境を作り、勤務状況を把握しながら個々の労働時間の実績をふまえ各自が向上心が持てる職場に整備するよう努めていきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修は機会があれば少しでも参加できるようにしています。法人内での研修は日々忙しいため実行できていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の勉強会に参加するすることで交流もでき、お互いの悩み等を話し合い意見を聞くことでサービス向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入するにあたり、施設でのこれからの生活の事、不安な事等など耳を傾けながら安心して生活が出来る事を伝えていますが、時には表面に出ていない事も起きます。その時は家族と相談し、進めていくようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時見極める難しさはありますが、施設での生活が出来るか、出来ないか家族は不安を感じていると思います、施設で馴染むまでゆっくり様子をみて進めていく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入するにあたり、医療的な事介護的な事で必要とされる支援を見極め、ケアプランを作成しサービスに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員が同じ立場で助け合い、必要とされるところは支援しています。又時には意見交換も必要とされその都度話しあって決めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の面会等で職員も一緒に話したり、日々の生活状況を伝え問題点等がありましたらその都度本人と家族と職員とで話し合い、良い方向に進めて本人と家族との絆を大切にしています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が施設に来ることはあまり無いのですが家族と馴染みの場所に出かけることも時々あります。	地域に住んでいた利用者には、馴染みの方の訪問があったり、また親族の法事や墓参り、結婚式等家族と一緒に出来るだけ出かけられるよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士フロアーで過ごすことが多く、話をしたり、助けあったりして過ごしています。孤立を防ぐ支援に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も必要性があれば相談、支援に努めています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の中で暮らし方の希望や意向にも限界があり、本人の希望を少しでも叶えられるように努めています。困難な場合は職員側が優先的に努めています。	一人ひとり利用者と話をする中で、希望を聞くようにしています。利用者が自分の意思を表せるよう、買い物などで利用者自身が選べるような場面を作り、好みを知る機会としています。困難な場合は家族に説明し、職員が本人本位に検討しながら進めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活や暮らし方を理解したうえで、環境が変わることで馴染めないこともあり、その方の状況を理解し様子をみながら取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の有する力も個々に違うため、出来る事出来ない事を把握して、無理のない過ごし方で一日を過ごしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	これから施設で生活する中で、必要とされるニーズを把握し家族にこれからのケアについて理解していただき、職員の意見も参考にし介護計画の作成をしています。	ケアマネジャーが中心となり、職員から意見を聞き取り、日々の記録などからも課題をさぐり、家族の要望、主治医の所見などを踏まえた上で自立に繋がる支援に向けた介護計画を作成しています。毎月モニタリングを実施し、基本的に計画は半年毎に見直していますが、状態に変化があった場合はその都度見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録を記入し職員間で情報を共有しながら、気づいた点、見直す点を把握し実践に努めています。又介護計画の見直しも実践しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	環境の変化やその時々に生まれるニーズに対応した柔軟な支援をしています。又家族と連携を取りサービスの多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が生活していくうえで自分で出来ることは自分で行い、本人が発揮できるメリハリのある日々を送っていただくよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療法人が経営していることで、本人、家族等の安心も得られています、病院との関係も築かれていますので直ぐ対応できます又往診も適切な医療を受けられるよう支援しています。	かかりつけ医の希望は入居時に聞いています。法人である病院には2週間に1度通院し、24時間相談できる安心した体制となっています。歯科や眼科については往診があり、提携医以外の受診の際はホームで支援したり、家族に対応してもらったりしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	病院との関係も築かれていますので、情報を伝え適切な受診が受けられるように支援しています。看護師と利用者の関係も築かれていますので相談しやすい面もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病院関係者と毎日情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	不穏な状態が続いた時は早期に対応し、医療関係機関とも連携を取り早期にに対処しています。又家族等と今後の対応策を考え、方針を決めています。	入居時や家族会にて重度化についての話をしており、ホームで出来る事や出来ない事を説明しています。重度化された場合については、早い段階で家族と相談しながら法人の病院とも話し合い対応しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	高齢者の施設では急変や事故発生も多々あります、職員は個別の研修に参加することで少しながら実践力を付けています。施設内でも訓練を行いたいと思います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え利用者が避難できる訓練は行っています。又地域の方と災害時についての相談等も行っています。	避難訓練は年2回、自主訓練と消防署との訓練を実施しています。前回は夜間の災害訓練を行っています。地域との協力体制については運営推進会議で話し合われています。	近隣のビジネスホテルや利用するコンビニ等にも声掛けをし、協力体制を築かれるよう働きかけることが期待されます。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりのプライバシーを守り、人格を尊重した同じ立場で話し合える事や、誇りを傷つけない言葉がけに注意をするようにしています。	利用者の人格を尊重した支援を行うように対応しており、管理者は職員の態度や言葉掛けに注意を払っています。不適切な対応があった場合については、その都度注意をするようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意見や希望が表に出て、自己決定のできる利用者には本人から希望等を受け入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の中で決まりや都合を優先することもありますが、趣味や希望にそった支援を一部の方は実行しています。現実はその日何もしない過ごし方をしている利用者がおおいいです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立している利用者は自分で衣類を選び、好きな服をきています。困難な利用者については職員の方で決めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間がとても楽しみです。家族が持参したものや自分で買った物を食べる事もあります。又利用者と職員が一緒に準備や片付けも行っています。	献立は法人の栄養士が立てており、昼食については食材を法人に取り行き、利用者と一緒に職員が作っています。大根を摩り下ろしたり、お茶を入れたり、盛り付けや後片付けなど、出来る事を利用者にしてもらっています。職員は利用者と一緒に食事をするのではなく、介助が必要な利用者に付き添っています。	行事や遠足の際には利用者と一緒に同じ食事をしています。日々においても職員一人でも利用者と一緒に楽しみながら食事されてはいかがでしょうか。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量が違うため、状態や習慣を考慮したうえで支援しています。水分も各個人の部屋に確保できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後本人の力に応じた歯磨きをしています。又一週間に一度口腔ケアの歯科往診をお願いしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力にも限界があり、自立で排泄できるパターンと、誘導によって排泄できるパターンとがあります。	自立できている利用者もいますが、職員は利用者個々のリズムを把握し、日中はそのリズムに合わせ誘導しながらトイレで排泄できるよう努め、出来るだけ自立に向けた支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じて食べ物を刻みにして工夫したり、便秘にならないよう便秘薬を服用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は楽しみの一つで、入浴日も決めています。職員の都合等で曜日、時間帯を決めていかないと限られた人数で入浴介助を行うためです。ここにそった支援は現在は難しいです。	入浴は週3回、午前中に実施しています。1階の広い浴室を利用して気の合った利用者同士が一緒に入っていますが、希望があれば個浴も可能です。入浴を拒否する利用者には声掛けを工夫したり、家族に来てもらい見守ることで入浴できるよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の状態に合わせて対応しています。安眠剤を服用している方も多く安心して入眠出来るよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服用している薬も色々違うため、目的や用量も症状にあわせていると思います。症状の変化や行動にも気お付けて支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活をする中で、役割を決めたり張り合いのある楽しみを見つけたりして日々楽しく過ごせるようにしています。気分転換にはほぼ毎日散歩に出かけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力で外出する方もいますが、普段行けない場所に遠足で出かけたり、お花見に出かけたりして支援しています。又　コンビニやスーパーにも買い物に行っています。	天候の良い日には車椅子の方も散歩に行くようにしており、買い物や法人に食材を取りに行く際や通院の際もドライブを兼ねて外出しています。また季節ごとのレクリエーションとしての外出をしたり、市や地域の祭やイベントにも出かけています。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の力に応じてお金を所持されている方もいます。買い物日には好きな物を買うように支援しています。又家族と外出した時も買い物をされています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に電話を掛けるのは一部の方で、他の利用者はほとんど電話を掛けることはありません。手紙のやりとりもほとんどなく、年賀状、暑中はがきぐらいです。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昼間は共有スペースですごすことが多く、雑談、笑い声等もあり楽しく過ごされています。壁には季節感を取り入れた飾りも配慮しています。	リビングや入口には花を飾り、ホーム内は季節毎の飾り付けをして季節感を出すように工夫しています。リビングを囲むように居室があり大きなソファが配置されゆったりとくつろぐ事が出来ます。また小さなスペースにイスを置いており、思い思いに過ごす事も出来ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者自身が思うように移動したり、居室でゆっくり過ごせる時間も作っています。思い思いの時間を作っています。		
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時家族と相談して使い慣れた物、必要とする物等居心地の良い環境づくりに活かしています。	居室は洋室でベッドと整理ダンスがを備えつけています。家族の協力を得て、神棚・仏壇・冷蔵庫・ドレッサー・編み物の道具など思い思いの使い慣れた物を置き、心地よく過ごせるようにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個室の表札、トイレの表示等目の届く範囲に表示しています。利用者が自立した生活が送れるように工夫しています。		